

2016年度 BICSI日本支部 活動報告

2017.11.29
BICSI日本支部委員会



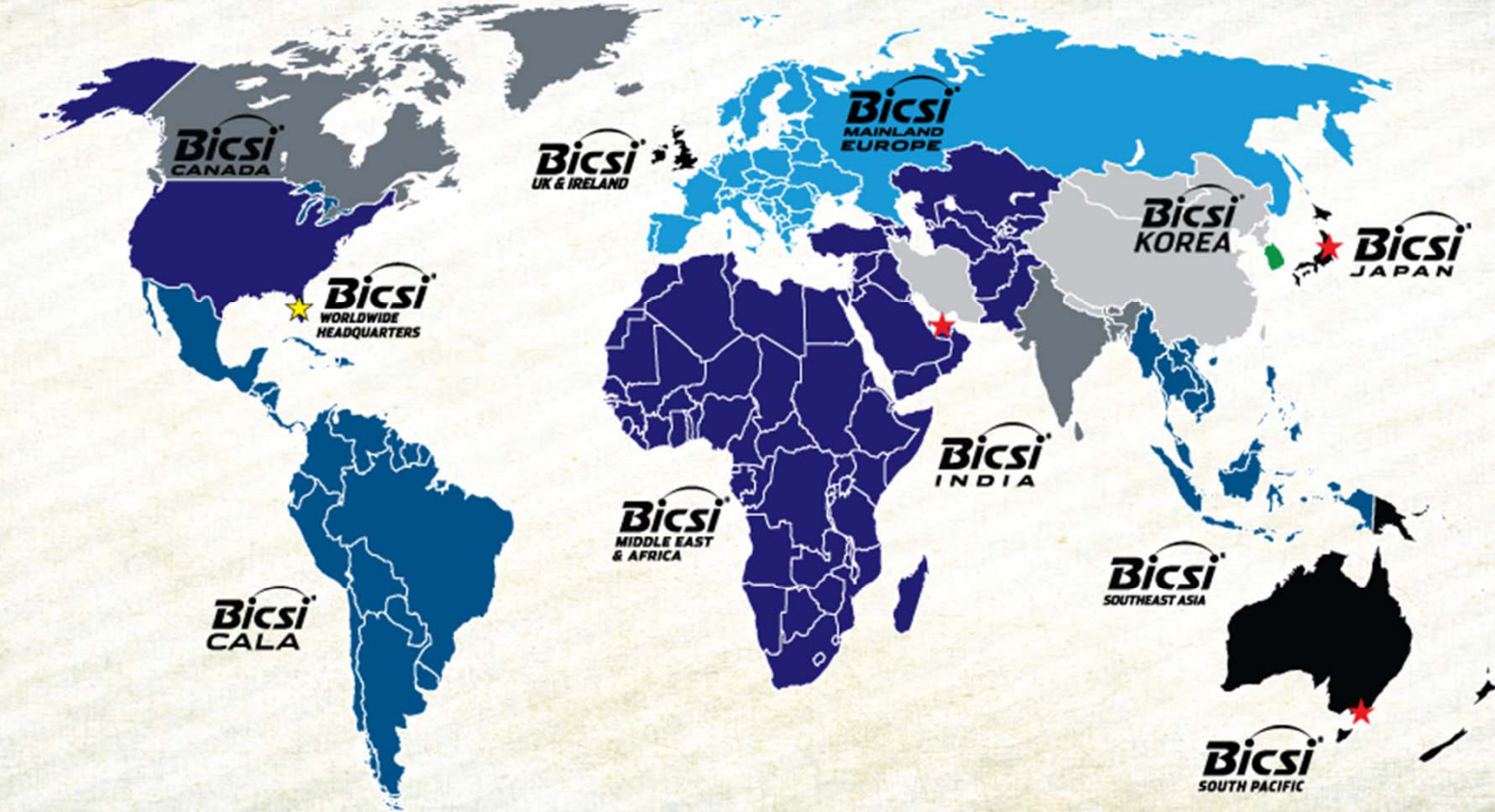
Bicsi

BICSIとは？

- BICSI(Building Industry Consulting Services International)は、米国において、1974年に設立された、情報配線システムの設計、施工に関する非営利の教育団体。
- ICT業界における最先端の技術動向に関する情報提供、公認のセミナー・認定資格試験の実施などを通じICT業界において、必須となる高度の知識を持った技術者を養成し、業界の発展に寄与することを目的として活動。
- 約100か国に約24,000名の会員が参加している。



BICSI Serves more than 23,000 ICT community professionals in 100 countries around the world



BICSI Japan

- **Japan District Chair**
Katsuji Furuichi
• kfuruichi@bicsi.jp
- **Japan District Secretary**
Masayuki Mori, RCDD
• mmori@bicsi.jp



www.bicsi.org/japan



BICSI設立の経緯

- 1970年当時、米国では大規模なオフィスビルの建設が進んでいたが、通信配線に関する適切な設計技術が浸透しておらず、提供不可となる事象が多発し、問題となっていた。
 - 引込口がビルに用意されていない
 - 通信シャフトが引込口に繋がらない
 - ケーブルを敷設する配管が足りない
 - 通信配線室が存在しない等
 - 建物設計、建築企業体における通信配線設備の設計力向上が、業界、利用者から強く求められていた。
- AT&Tを代表とする一部の米国の通信事業者により、通信配線設計に関する業界マニュアルを作成し、これを浸透させ、諸課題を解決することを目的として、業界団体を発足させた。
- 以降、通信配線設計に関するマニュアル「TDMM」と、一定水準の知識を身につけていることを証明する「RCDD」の資格制度を米国内で浸透、有資格者による設計承認を義務付けるまでに至った。



RCDDとは？

- RCDD — Registered Communications Distribution Designer の略 (登録通信配線設計者)
 - グローバルで約7,300人が取得、日本では30名
 - RCDD資格を有することは、米国で最も浸透している通信配線に関するマニュアルである、TDMM (通信配線体系マニュアル) を詳細に理解し、データセンターや、オフィスビルなどの建築物において、通信配線の設計に関する、各基準を理解し、適切な対応ができるという証明に相当するもの
 - 米国では、政府機関、軍の入札案件には必須の資格であり、建設業界においては、該当する場合、RCDDの承認を受けなければ、設計図面を完成させ、施工フェーズに工程を進めることはできない



TDMMとは？

- TDMM(Telecommunications Distribution Methods Manual) 通信配線設計マニュアル12版は、24章(約1,500ページ)から構成される。
 1. 伝送の原則 Principles of Transmission
 2. 電磁環境適合性 Electromagnetic Compatibility
 3. ITSケーブルと接続ハードウェア ITS Cables and Connecting Hardware
 4. ワークエリア Work Area
 5. 水平分配システム Horizontal Distribution Systems
 6. バックボーン配線システム Backbone Distribution Systems
 7. 通信スペース Telecommunications Spaces
 8. ファイアストッピング Fire stopping
 9. ボンディングとグラウンド(接地) Bonding and Grounding
 10. 電力分配 Power Distribution
 11. 電気通信管理 Telecommunications Administration
 12. フィールド試験 Field Testing



TDMMとは？

- 1 3. 設計、建築工事、プロジェクト管理 Design, Construction, and Project Management
- 1 4. 構内CATV分配システム Private CATV Distribution Systems
- 1 5. 構内放送システム Distributed Paging Systems
- 1 6. ビルのオートメーション・システム Building Automation Systems
- 1 7. データネットワークデザイン Data Network Design
- 1 8. 無線 Wireless Networks
- 1 9. 電子化された安全とセキュリティ Electronic Safety and Security
- 2 0. 顧客所有の屋外設備 Outside Plant
- 2 1. データセンタ Data Centers
- 2 2. 医療 Health Care
- 2 3. 特殊設計の考慮事項 Special Design Considerations
- 2 4. 住居の配線 Residential Cabling



- 会員動向

- 2016年6月末日 252名

- 法人48社 190名

- 個人62名

- 2017年6月末日 263名

- 法人50社 197名

- 個人66名

- 2016年度においては会員数は微増となった。

- 退会者の直近での活動実績は見られず、例年に比較し、新規会員(法人6社、個人23名)との入れ替えがすすみ、活動の活性化につながっている。

- ユーザー、施工、製造、SIなどが平均的な割合であった。

- 263名の期末会員数は、2007年末以降の最高水準である。

- 今年度においては、多くの会員増はなかったものの、アクティブな会員が増加したことが特徴である。



• セミナー等開催状況

• セミナー/ハンズオン(12回)

- インストラ向けハンズオンを中心として開催(8回)
- 4月からの新入社員が受講しやすいセミナーをシリーズ化で体系化
- CEC付与セミナー(2回:計6CEC、カンファレンス8CECと合わせて14CEC)
- 新人初級向けのセミナー(NW基礎)をCEC付与の対象外とした
- 延べ参加人数は、277名(2015年度232名)
- 新入社員から管理職まで幅広い層が受講

– ファクトリーツアー(2回)

- 通信興業(川越工場)の見学を定期的 to 実施

– グローバルセミナー(1回)

- BICSIサウスパシフィックより講師を招き、OSPIについて講演

– ゲストセミナー(6回)

- 会場スポンサー紹介、会員外からのゲスト講師によるセミナー



日付	内容
7月6日	導入から見えた！ SDNがもたらす価値と今後の動向
7月26日	メタルケーブル施工ハンズオン（中級）
8月2日	メタルケーブル測定ハンズオン（追加開催）
8月4日	光ファイバーOTDR測定ハンズオン
8月25日	ネットワークの基礎～物理レイヤの初級編
9月20日	次世代光ファイバ規格：WBMMF/WideBand Multimode Fiber 技術解説
9月20日	データセンターの最新動向と配線設計
9月27日	Wi-Fi ライフサイクル（設計/構築/運用）を考慮した対応 を行うには
10月18日	物理セキュリティのトレンド（あらたな方向へ）
11月9日	Wi-Fiビジネス最前線
11月11日	ファクトリーツアー

日付	内容
12月14日	光ファイバーケーブル施工ハンズオン（中級）
1月18日	OTDR測定ハンズオン
2月9日	規格から見たネットワーク施工の基礎
2月21日	過酷な環境における屋外ケーブリングの実態とその解説
3月7日	Wi-Fi設計/構築/運用 ライフサイクルを考慮した対応を 行うには
4月11日	ネットワーク技術の基礎
4月25日	メタルケーブル施工ハンズオン（初級）
5月16日	ファクトリーツアー
5月26日	メタルケーブル測定ハンズオン
6月20日	光ファイバーの融着・メカニカル接続実習



2016年度活動報告

- 2016年度BICSI日本支部カンファレンス
 - 開催日:2016年11月25日(金)
 - 会場:ソラシティ・カンファレンスセンター(御茶ノ水)
 - 基調講演/セミナー
 - 基調講演を含む、6つの講演と4つのワークショップ
 - CSC(Cabling Skills Challenge) /スピードチャレンジ / 懇親会
 - 来場者数:163名(2015年度:177名、2014年度:100名)



2016年度活動報告

- 資格試験関連

- 日本語版RCDD試験

- 開催日:2016年10月08日(土)、2017年3月11日(土)、2017年6月10日(土)
 - 会場:東京・品川
 - 受験者数:計21名
 - 参考:現在の日本支部におけるRCDD資格保有者は30名

- 日本語版DCDC試験

- 上記RCDD試験と同様の日程、会場
 - 受験者数:計26名
 - 参考:現在の日本支部におけるDCDC資格保有者は2名

- 2017年度にも2～3回のRCDD,DCDC日本語試験開催を予定



2016年度活動報告

- その他取組み等
 - カンファレンス参加費用の見直し
 - BICSI会員であれば、早期割引を適用し、3,000円で参加可能(従来は一律10,000円)
 - 来場者の大幅増と合わせて、無料招待枠を減らして収益を改善
 - ANSI/BICSI 002-2014
データセンタの設計および構築のベストプラクティス
日本語版発売
 - Webサイトのリニューアル
 - BICSI日本支部のWebサイトを刷新
 - 会員申請やセミナーの申込み、書籍購入をオンラインで実施可能



2016年度活動報告

- BICSI日本支部委員会 定例会議開催状況
 - 幹事委員総数 13名(期中退任6名含む)
 - 定例会議開催数 12回
 - 平均参加者 6.3名/回
 - 幹事委員平均参加率 53%
 - 2017期より、和田幹事委員が参加、計8名での運営となる

	2016						2017						参 加 回 数 2016	参 加 率 2016
	7 / 1 2	8 / 4	9 / 1	10 / 4	11 / 8	12 / 6	1 / 6	2 / 5	3 / 2	4 / 3	5 / 8	6 / 4		
古市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	100%
森		1			1		1		1		1		5	42%
大津	1	1	1	1	1	1							6	100%
大橋													0	0%
坂本					1						1	1	3	25%
小西	1		1		1	1			1	1	1	1	8	67%
清水		1			1			1					3	33%
高橋	1	1	1	1	1		1	1	1		1	1	10	83%
武井	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	100%
友永	1	1	1	1	1	1	1	1	1				9	100%
沼田	1	1	1		1	1							5	83%
松島													0	0%
宮本	1	1		1	1	1		1		1	1	1	9	75%
参加人数	8	9	7	6	11	7	5	6	6	4	7	6	6.3	53%



2017年度重点実施施策年間計画

- 1) セミナ開催計画および実施
- 2) カンファレンス開催計画と実施
- 3) 資格試験の開催(RCDD,DCDC)
- 4) 定款の改訂
- 5) 会員増施策の検討と実施(カンファレンスへの非会員来場者の大幅増)
- 6) 他地域のBICSI組織との交流・意見交換・スポンサ/講演者紹介
- 7) 米国本部委員会への積極参加(グローバル、資格試験など)
- 8) マニュアル翻訳(TDMM14版)
- 9) 年会費の改定(法人・個人各5%増:2018/04/01~)
- 10) BICSI公認トレーニング施設(ATF)設置の検討

カンファレンス後～3月までの定例会議は、主に翌年度への準備期間とする。

